

前回の復習

5月に発生する害虫

イネミズゾウムシ

2018年5月19日調査結果

上の田んぼ 0頭(畦際で見かける程度)

中の田んぼ 0頭

下の田んぼ 0頭

箱施薬の田んぼ 0頭

6月の害虫

1 イネドロオイムシ

成虫:体長約4~5mm、細長い輝きのある青藍色の甲虫。

卵:黄褐色、長径0.8mmで数粒ずつまとめて葉面に産む。

幼虫:洋なし型で成熟すると体長約5mm。いつも自分の糞を背面に背負っている。

蛹:体長4mmの黄白色で白い繭の中にいる。

幼虫は葉をかすり状に食害し、被害が著しい場合は、株全体が白っぽくなる。

寒冷地型の害虫。年1回の発生で成虫で越冬し、越冬成虫は5月上旬頃から活動を始める。

畦畔の雑草や田植え直後のイネを加害する。

越冬成虫の生存期間は長く、7月中旬まで普通にみられる。

6月下旬頃には越冬成虫から新成虫まですべての生育ステージがみることができる。要防除水準は株当たり3~4頭



イネドロオイムシ成虫



イネドロオイムシ幼虫と泥糞



被害株

山口県ホームページより

2 いもち病に注意(実はこちらの方が怖い)

感染の条件

生育適温は、25～28℃で、
感染は葉面の湿潤時間が10時間以上必要。
(雨量1mmの雨がしとしと降るようなイメージ)

苗で発生する 苗いもち

本田で葉に発生する 葉いもち

出穂後穂に発生するもの 穂いもち

葉の病斑 紡錘形、周縁部褐色、中央部灰白色。

急性型病斑が株全体に発生すると、
ずりこみいもちといって稲全体が燃えたように
萎縮してほ場全体が枯れ上がるような被害が出る。

例年 6月20日前後に初発が確認される。多発が予報された場合、
オリゼメート粒剤を施用する。



葉いもち

左上 病斑, 左下 多発, 右 ずりこみ

やまがたアグリネットより

3 ウンカの飛来(6月には問題にならない)

梅雨前線の通過時に下層ジェットに乗って、中国からやってくるセジロウンカ(夏ウンカ), トビイロウンカ(秋ウンカ), ヒメトビウンカ
通常, 多発生は7月以降。

場所が違えば, 発生する主要病害虫が変わります。
一律に病害虫防除をすると, しなくても良い防除をすることになります。
虫を見て, 防除するというのが理想ですが, その地域で害虫が問題となる時期を知るだけでも防除に対する姿勢が変わります。